

道の駅「みつまた」・十日町情報館 視察報告書

日時：令和元年10月31日（木）

場所：①新潟県湯沢町 湯沢町役場、道の駅みつまた
②新潟県十日町市 十日町情報館

参加者：木島、高野、柴沢、大辻、中野、谷村、成川 計7名

報告者：成川正幸

目的：本市で計画されている道の駅、図書館建設の参考にするために視察する。

内容：①新潟県湯沢町 湯沢町役場、道の駅みつまた

概要 敷地面積 5,872 m²

・国土交通省（休憩施設）

休憩施設（木造平屋建）約 141.38 m²

駐車場 17 台（交通量によって決められる）、トイレ 10 器、
情報提供装置、防災備蓄倉庫、非常用電源

総事業費 約 4.2 億円

・湯沢町（地域振興施設、園地）

農産物販売施設、軽食テイクアウトコーナー、温泉足湯

指定管理者 三俣未来まちづくり協議会

総事業費 約 1.8 億円

○道の駅が出来るまでの経緯

35年バブル景気と重なり大騒ぎとなり東京から黒船のごとく人々が押し寄せた。

「地域の生活はどうするのか」

開業して5年間は、週末には渋滞して車が動かなかった。「住民生活を何とかしたい」それだけだった。スキー場22か所あり、道路整備を行った。

しかし、バブルが終わり平成4年にパタッと止まる。渋滞もなくなり今はスムーズになった。しかし、住んでいる人にとっては住みにくくなっているのではないか。

昭和41年に塩津川ダム対策予備設計予備調査が始まり、その後37年間はダム問題に翻弄された。近隣の苗場スキー場が繁盛している一方で三俣地域が立ち遅れてしまったことに危機感を覚え、ダムで地域再生が出来るのではないのかと考えた。

そんな時に、三俣高原スキー場が政府の資本によって開発され、これで地域でダムが無くても自活出来るとダム建設の反対運動が起きた。平成14年には、下流の人たちもダムの水はいらないと言い出し、ダム建設の中止が決定した。

翻弄された地元からダム構想から今まで36年間の保証として、48項目要望

を提出した。

道の駅構想から 17 年経ち、48 項目の中で成功してるのは道の駅ぐらい。湯沢町の課題は、スキー産業の衰退と人口減少からなる後継者問題である。民宿で大稼ぎした時代は終わった現在、もしかしたら、さびれた今の段階だとダムを賛成する人も出てくるのではないかと思う。

○道の駅建設

「駐車場いらない 前にあるのは失敗だ」「築山を作りたい」「外でのんびりしてほしい」

駐車場を作らないと車を止められない。築山に登っても何も見えない。寒い地域なので外に出るのか。等、当初、堀先生の構想に議会として意見に賛同できなかった。堀先生が関わった福島県にある道の駅「しもごうの郷」を何度も視察に行った。しもごうの郷と条件が全く違っていたが、繁盛しているのを見て地元の青年たちが立ち上がり、指定管理者になった。11 月から 5 月まで滑られるスキー場を整備し、夏もスキーが出来るように整備した。休憩場所として隣接して共同浴場も整備。繁盛するようになった。

○駐車場と桜効果

平成 19 年に基本構想。手前が駐車場で奥に建物の設計。駐車場を目の前に作ってしまうと、買い物だけして終わるといところをアドバイスいただき、建物裏に駐車場建設予定。しかし、用地が購入できず、国道 17 号線を挟んで反対側に駐車場用地を購入。その後、裏に用地が購入できるようになり、防災備蓄品倉庫を建てた。先生は駐車場いらないと言っていたが、下郷の郷にも行ってみたら足りなくて別に作っていた。みつまたは隣接して温泉施設があり、70 台止められる。

特徴的なものは内外に源泉かけ流しの足湯を作った。当初は、室内に湿気がこもるのではと心配したが、そうでもなく、冬は暖かく、滞留する場所になった。

また、滞留できる場所として、池と築山を提案してきた。それを見て、当局も議会も反対だった。出来てしまうと、「桜効果」から池を眺めてたり、子どもたちが築山に登ったり、のんびり滞在する人たちが出来てきた。また、先生は「看板はいらない」と言われたが、新たに看板を付けた。

○販売商品

来場者数年間 10 万人、売り上げ 1 億ちょっと。販売商品は農産物メインだが、湯沢町では野菜が採れないので地域に産物にこだわれない。採れないので、登山用品「モンベル」を置いている。

また、湯沢町だけではなく新潟県の名物がほとんど揃えている。他で買えない新潟県の一品物としてお酒、おにぎりが売れている。野菜は他でもやってい

るので、考えたほうがいい。当たっているところはたくさんある。

○所見

堀先生の目指すところが見えて、駐車場、築山など本市に整備する道の駅の構想が理解できて良かった。ただ、出てきた図面をそのまま実施するのではなく、その場所にあったものを作るためには、何回も議論を重ねていく必要があると思った。機会を作ってもう一あるある福島県の道の駅にも行ってみたいと思う。

○写真



②新潟県十日町市 十日町情報館

○概要

・整備目的

- ※区画整理によって誕生する新しい街の拠点となる都市的空間
- ※リゾート母都市として地域情報を受発信するセンター
- ※広域的な市民交流の拠点

・機能

- ※図書館、地域情報の受発信の場

・事業主体

- ※基本構想 新潟県、十日町市
- ※情報館の基本設計 新潟県
- ※情報館の実施設計 十日町市

・設計料等

- ※基本設計（県費） 38,742,000 円
- ※実施設計（市費） 本体外構 70,534,400 円
- ※施工管理（市費） 本体工事 40,005,000 円
外構工事 1,449,000 円

・建築概要

- ※地上2階建て RC（一部PC）造
- ※延べ床面積 4,499 m² 建築面積 3,138 m²

○十日町情報館の役割

- ・すべての市民が、読書の楽しさと、知る喜びを感じる情報館
- ・市民が必要とする情報を提供することで、市民の自立を支援し、自立した市民によるまちづくりを支える情報館

○所見

映画「図書館戦争」のロケ地にもなった施設で、入口から館内に入ると書籍が山のように見える。館内は河岸段丘をイメージして作られているそうである。

除籍図書の販売でリサイクルを促進。また、文字の拡大機器などを導入し、小さい文

字が呼びにくい方も読みやすいようにしている。古文書を所蔵しておく部屋もあり、見

ただ目だけではなく、まちの学びの場としてしっかり施設整備をしている印象を受けた。

○写真

